



show コマンドライン インターフェイス

この章では、シスコの show コマンドの概要を説明します。章の構成は、次のとおりです。

- [show コマンドの構文 \(P.30-2\)](#)
- [show コマンドのオプション \(P.30-3\)](#)

コマンドライン ツール **show** は、Cisco CallManager のコンフィギュレーション データベース、コンフィギュレーション ファイル、メモリ統計、および Windows 診断情報の内容を表示します。

show コマンドの構文

show ツールを使用するには、Cisco CallManager をインストールする必要があります。**show** コマンドは、DOS シェルから実行します。出力データは、コンソールに表示することも、テキストファイルに保存することもできます。



(注)

show コマンドは、\Temp ディレクトリ内で出力用の一時ファイルを使用するので、この一時ファイルを保存するディスク スペースに十分余裕があることを確認してください。ディスク スペースの必要量はさまざまな要素によって決まります (たとえば、ユーザ数、使用するデバイス数、システムが使用するデータベースのサイズなど)。

もう 1 つの方法として、**show.exe** は、Telnet サーバソフトウェアが使用可能な場合にその Telnet セッションから実行することもできます。

show.exe のファイルは、Program Files\Cisco\Bin のディレクトリに格納されています。

show コマンドの構文は、次のとおりです。

```
show [-f <filename>] [-c <column width>] [-w <console width>] [-v] [command parameter]
```

show コマンドのオプション

表 30-1 に、**show** コマンドでサポートされているオプションを示します。

表 30-1 show コマンドのオプション

パラメータ	説明
-f <filename>	レポートを出力するファイル名
-c <col width>	データベース レポートの各カラムの幅(デフォルト 15)
-w <con width>	データベース レポート領域の幅 (デフォルト 80)
-v	冗長モード

表 30-2 に、**show** コマンドのパラメータを示します。

表 30-2 show コマンドのパラメータ

パラメータ	説明
?	ヘルプ メッセージを表示します。
db	コンフィギュレーション データベースを表示します。
db tables	データベースの表の名前を表示します。
db t <tablename>	データベースの表の内容を表示します。
inst [apps elem all]	インストール済みのアプリケーションと要素に関する情報を表示します。
isdn [cluster local specific]	ゲートウェイの D チャネルの状況を表示します。
ps	ローカル システム上で実行されているプロセスをすべて表示します。

表 30-2 show コマンドのパラメータ (続き)

パラメータ	説明
win	Windows の診断結果を報告します。 win パラメータを指定した出力には、システム統計、ストレージ情報、ソフトウェア環境、要約統計などの情報が含まれます。  (注) show win は Windows のシステム情報を取得するために多量の CPU リソースを消費し、表示には長時間かかります。このコマンドは、Cisco CallManager がビジーでないときにだけ実行してください。
tech (none)	データベースと Windows のシステム情報を報告します。  (注) show tech のレポート結果は、パラメータを指定しない show コマンドと同じ複数レポート出力です。

Example:
 show -f output.txt -v -w480 db
 show tech
 show db t ProcessNode